

1 鶴松館



佐土原城二の丸跡に作られた歴史資料館で平成5年に開館しました。佐土原城に関する展示を見ることができます。寛永2年(1625)佐土原藩2代藩主島津忠興の時、山上の城を廃して山下に居館・藩庁を移した後、明治3年(1870)広瀬に転城するまでこの地が藩政の中心でした。平成元年(1989)に発掘調査が行われ、柱穴や根石の跡が見つかりました。

2 天守台跡



平成8年(1996)の発掘調査で南九州の城では唯一となる天守の存在が確認されました。天守台の周りからは金箔のついた鯨瓦も発掘されています。平成29年、令和3年にも石垣の構造についての調査を行っています。

3 大手道堀切跡



山城佐土原城の主要な道で、尾根を縦に断ち割って作られています。

4 中の道 ほぞ穴跡



よく見ると崖面に穴が開いています。この穴は門をたてるために開けられたほぞ穴です。

5 柵形虎口跡



本丸の入口にある虎口です。L字状に折れ曲がっているため、侵入してきた敵がスムーズに通れないようになっています。

6 御普請所跡



御普請所は、山城の整備をはじめ、藩内の土木建築を管理する重要な場所でした。発掘調査の結果、根石遺構も発見され、かなり大きな建物が存在していたことが分かっています。

7 巨田神社



社伝によると、天長 8 年 (831) の鎮座とされており、ホンダワケノミコト (応神天皇) 及び住吉四社の神を奉祀しています。おそらく宇佐八幡宮領田島庄の鎮守として勧請されたものでしょう。本殿は「三間社流造」で室町時代の神社建築様式をそのまま残している県下唯一の社殿です。本殿と 2 2 枚の棟札は国の重要文化財に指定されています。

8 鴨越網獵供養塔



巨田池では毎年 1 1 月 1 5 日～2 月 1 5 日までの間、鴨網獵が行われています。飛んでいく鴨に目掛けて網を投げ、捕獲する伝統的な猟法です。江戸時代ごろまでは各地で行われていましたが、現在は、全国で 2 ヶ所しか行われていない貴重な猟法です。平成 5 年、こうして捕獲された鴨を供養するための石塔が建立されています。

9 佐野原神社(佐野原聖地)



鵜草草葺不合尊 (ウガヤフキアエズノミコト) の宮殿跡で、神武天皇など 4 人の皇子が生まれた場所と伝えられています。伊東氏によって神社が創建されたと言われていましたが、明治 2 年 (1869) に巨田神社に合祀されました。昭和 9 年 (1934) に地元の有志によって「佐野原聖地保存顕彰会」が設立され、同 35 年 (1960) に神社が再建されました。

10 高月院



浄土宗鎮西派の寺院。慶長 17 年 (1612) に佐土原藩 2 代藩主島津忠興によって創建されました。寺名は初代藩主以久の法名「高月院殿仁雄宗恕居士」に由来します。以来、佐土原島津家の菩提寺として庇護を受け、歴代藩主と夫人たちの墓石が並んでいます。本堂の中の島津家の仏壇に安置されている阿弥陀像は、9 代藩主島津忠徹の夫人、随真院が造立記とともに寄進したものです。

11 島津家墓所(高月院)



佐土原島津家の菩提寺として庇護を受け、歴代藩主と奥方や子どもの墓石が並んでいます。また、9代藩主忠徹の妻、随真院が可愛がっていた犬「ふく」の墓石もあります。なお、歴代藩主のうち5代藩主惟久と6代藩主忠雅の墓は大光寺にあります。

12 豊烈曜後之碑



高月院境内にある石碑、京都大雲院（京都市東山区）から移されてきたものです。戊辰戦争に参戦した佐土原藩兵の本陣は、京都四条の大雲院に置かれていました。明治元年（1868）12月、奥羽・北越での戦闘が終結し大雲院に引き上げてきた佐土原隊は、この碑を境内に建立し盛大な慰霊祭を執り行いました。碑文には戦闘の経過と戦死者の名前が記されています。

13 佐土原神社



明治34年（1901）創建。佐土原藩主島津家の歴代当主を祭神として祀っており、拝殿の屋根に家紋が付けられています。懐徳揚烈碑や祭田の碑、戊辰戦争から日露戦争までの戦死者の霊を祭る招魂碑が建っています。かつては祭礼日の10月18日に旧佐土原藩十ヶ町村の運動会が実施されていました。

14 懐徳揚烈碑



佐土原神社境内に建つ島津忠寛の墓碑銘です。島津忠寛（1828～1896）は佐土原藩最後の藩主で、明治2年（1869）には戊辰戦争での功績により賞典録3万石を拝領しています。この墓碑銘は、同35年（1902）、旧藩士等が寄付を集めて高月院廟所に建立されましたが、大正8年（1919）4月に佐土原神社境内に移されました。

15 学習館跡



佐土原藩の藩校として文政8年（1825）5月に建設が始まり、資金不足を補うため町人からも寄付を集め、同年9月に完成しています。儒学を教えるとともに武芸の教育も行っていました。現在、その跡地は宮崎市立佐土原小学校となっています。

16 佐土原城の堀跡



佐土原小学校の周りには、佐土原城のお堀の跡を見ることができます。この堀の内側（城に近い側）が上級武士の住む館が並ぶ地域でした。現在堀跡は追手川と名付けられ、拡張工事が行われたため当時と流れが変わっているところもあります。

17 金柏寺釈迦堂



照桂山金柏寺は伊東義祐の創建で、天文20年（1551）12月、大仏堂を建立して盧舎那三尊を安置したことにはじまると伝えられます。当初は現在の釈迦堂の東に位置する交差点付近を中心に大伽藍があったようですが徐々に衰微していきました。明治10年（1877）の西南戦争の際に火災にあい、金銅製の降誕釈迦仏の像や木喰（行道、五行）上人によって作成された釈迦仏の上部のみが、釈迦堂に遺されています。旧暦の4月8日には、降誕釈迦仏に甘茶をかける「花まつり」が行われます。

18 誓念寺



浄土宗の寺院。天正16年（1588）肥後国の寶蓮社応誉僧が開山しました。初代藩主島津以久が浄土宗に改宗し高月院を建立したため、商人町の庶民の浄土寺院として根を下ろしました。本堂のすぐ裏の墓地には、齊藤平四郎の碑文入りの墓があります。

19 齊藤平四郎の墓



江戸時代の町人で、安宮寺の僧 野田泉光院の6年2か月に渡る修行の旅を供した人物の墓です。出発当時、平四郎は39歳、野田泉光院は57歳でした。

20 石散燈(石敢當)



石敢當は、丁字路の突き当りに魔物がぶつかると家に入ってきてしまうと信じられていたことから、魔除けとして建立されたもので、沖縄や鹿児島、宮崎でよく見られるものです。現在、佐土原町内にはこの一基しか残っていませんが、以前は町の丁字路の各所に建てられていました。なお、この石敢當の表記は何故か「石散燈」となっており、他所では見かけない表記となっています。

21 商家「旧阪本家」



阪本家は江戸時代から続いた味噌・醤油醸造販売を営む旧商家で、この建物は明治38年(1905)に建築されました。新町とよばれるこの界隈は佐土原藩の町人町として位置づけられ、明治初年に城が広瀬に移った後も商店街として栄えました。現在は、宮崎市佐土原歴史資料館の一部として活用されており、どなたでも見学ができます。(土日・祝のみ開館、開館時間9:00~16:30、入館料無料)

22 祇園様(八坂神社)



商人の神様として祀られ、かつては例祭が盛大に行われていました。明治になると芸者置屋・招き屋などがある色町として賑わっていました。現在は鳥居、社殿と佐土原藩家老樺山久寛が奉納した石燈籠が残されています。

23 舞鶴座跡



明治頃からこの辺りは芸者置屋・招き屋などがある花街として賑わっていました。花街では歌舞伎の芝居や様々な興行が行われたといいますが、舞鶴座にも興行のための大きな舞台があり、たくさんの観客を収容できる娯楽施設であったといわれています。

24 曼陀羅寺跡



浄土宗の寺院。天文8年(1539)、如法大姉が上皇からの御下賜の衣服を解き、曼陀羅一幅を織りこれを本尊として曼陀羅寺を建立したと伝えられます。伊東義祐の保護を受けていましたが、伊東氏の豊後落ち後、無住の寺となりました。寛文2年(1662)に信譽師が再興しましたが、廃仏毀釈で廃寺となりました。現在は曼陀羅一幅のみが高月院に保存されています。

25 多楽院



真言宗の寺院。応仁2年(1468)に盛存師が開山しました。明治4年(1871)に廃寺となりましたが、その後再興されています。境内にある供養塔は、永禄8年(1565)に伊東義祐が建立したとみられ、伊東氏5代祐堯から7代尹祐の戒名が書かれた供養塔が残っています。

26 崇称寺



浄土真宗西本願寺派の寺院。代々島津家の家臣であった安藤武伴が帰依し、浄順と号して万治3年（1660）嶋之口（東春田八ヶ村）に開山しました。明治初期に現在地へ移転しています。

27 木村長門守重成像



木村重成は豊臣秀吉の側近として知られ、慶長20年（1615）大阪夏の陣で戦死した武将です。この地にあった木村屋敷は、昔から重成の生誕地といわれており、昭和31年（1956）に現在の石像が建立されました。

28 松厳寺



臨済宗の寺院。慶長元年（1596）に杏叙禅師が開山したといわれ、古月禅師が10歳で出家し20歳になるまで修行をしていた寺院です。庶民の寺として信仰を集めていました。観音堂には、廃仏毀釈の際に廃寺となった東禅寺から移された平安期作といわれている木像観音立像11体が安置されており、このうち一体は子安観音として崇敬を集めています。

29 安宮寺跡



安宮寺は佐土原島津家の祈願寺となっていました。廃仏毀釈で廃寺となりました。野田泉光院が住職を務めていたため、寺跡に「日本九峰修行供養塔」が建てられています。

30 大光寺



臨濟宗の寺院。建武2年(1335)岳翁長甫を開山和尚、田島伊東氏4代祐聡を開基として創建されました。本尊は十一面観世音菩薩で、国指定重要文化財である騎獅文殊菩薩及脇侍像付天蓋一面や木造乾峯土曇坐像など多くの指定文化財があります。古月禅師の分骨塔や田島伊東氏の墓、佐土原藩5代、6代藩主の墓塔も残されています。

31 田島氏の墓



大光寺には田島氏一族のものといわれる墓が4基残存しています。田島氏は、鎌倉時代に日向国へ下向した伊東氏分家の一族です。下向当時、佐土原は「田島」という地名で呼ばれていたため、田島氏を名のようになりました。大光寺は田島氏4代祐聡を開基として創建されました。大光寺に遺されている文書(市指定有形文化財)には、田島4代祐聡や5代祐直の名前が見られるものもあります。

32 島津惟久、忠雅の墓



佐土原5代藩主島津惟久と6代藩主忠雅の墓です。この二人は古月禅師に帰依しており、元の墓は古月禅師の隠居寺である自得寺にありましたが、明治初年の廃仏毀釈で廃寺となったため、藩主の墓は大光寺へ移されました。

33 古月禅師分骨塔



古月禅師(1667-1751)は佐土原の佐賀利村に生まれました。10歳で禅宗の仏門に入り、松巖寺等で修行を積み、宝永元年(1704)に藩主島津惟久の命により大光寺42世住職となりました。後に禅師が開山となった久留米の福聚寺で亡くなりましたが、禅師の遺言により佐土原に分骨されこの塔に納められました。

34 野田泉光院の墓



野田泉光院<本名：野田成亮>（1756-1835）は幼いころから修行をし、山伏として大先達という最高の位を得ており、安宮寺の住職を務めました。文化8年（1811）に隠居し、翌年9月から6年2か月をかけて全国の諸山を巡る「九峰修行」を行いました。

その道中を記した「日本九峰修行日記」は当時の風俗が分かる貴重な資料となっています。

35 安宮大明神碑



佐土原が「田島庄」と呼ばれていた時代、この地を支配していた地頭田島七郎左衛門の娘・安姫の墓と伝えられています。安姫は当時流行した猿楽の美男役者との恋が父の怒りにふれ、恋仲を割くために池に投げ込まれたといわれています。その姫の祟りを恐れ、霊を鎮めるために安宮大明神として供養されたものです。

36 吉祥寺(鬼子母神)



日蓮宗八品派の寺院。慶長8年（1603）、種子島慈恩寺の寶正院日種法印を開山として創建されました。本尊は十界勸請曼陀羅、佐土原鬼子母神の別称があります。鬼子母神は、インドでは子授け・安産・子育ての神として知られ、日蓮宗では法華信奉者の守護神とされています。旧暦正月に開催される祭礼は「鬼子母神さま」と呼ばれ昔から大変な賑わいを見せます。

37 阪本家家祖三百年祭記念碑



商家資料館「旧阪本家」の先祖である坂本与三左衛門は、町人ながらいざというときは戦いに赴くという家柄でした（当時は「坂」の字を使用）。慶長5年（1600）関ヶ原の戦いの際、城主島津豊久以下主だった武士が西軍として関ヶ原へ赴き、手薄になっていた佐土原城へ稲津重政（東軍である飢肥伊東氏の家臣）軍が攻めてきた時、坂本与三左衛門も城下を守る戦いに参加し、戦死しました。

明治33年（1900）阪本家の子孫が集って先祖の供養を行い、宝塔山の一角に記念碑が建立されています。

38 吉岐璋庵の墓



佐土原藩5代藩主島津惟久に仕えた医者で、朱子学者でもありました。石碑の裏側にも文章を彫る形式のものとしては、町内でも最古の部類に入るものです。

39 愛宕神社



養老2年(718年)に丹波国桑田郡の愛宕神社(京都府亀岡市)の分霊を祀ったのが創建と伝えられています。火伏せの神が祀られており、江戸時代に大火が起こった佐土原城下の商人町の人々にとって尊崇を集める神社でした。

旧暦6月に開催される大祭は「愛宕さま」とよばれ親しまれており、勇壮な「ダンジリ喧嘩」が行われることで有名です。

40 自得寺跡(41 御牧赤報の墓、42 第一曾小川家の墓)



古月禅師の隠居寺で、佐土原藩5代藩主島津惟久、6代藩主忠雅の菩提寺でした。廃仏毀釈で廃寺となったため藩主の墓は大光寺へ移されましたが、家老の御牧赤報の墓や第一曾小川家の墓はそのまま残されました。

41 御牧赤報の墓



御牧赤報(1772-1833)は文政6年(1823)に遊学の途中に佐土原を訪れ、文武両道に精通した大阪でも高名な学識者であったため、佐土原藩9代藩主島津忠徹に招かれて儒学師範となり、のち藩校学習館の教授となりました。

42 第一曾小川家の墓



御牧赤報の墓の左側にある 10 基あまりの墓群です。曾小川家は 7 代藩主島津久柄の弟久謚が興した家で、幕末まで藩政に関わりました。

43 佐土原往還



佐土原は、古くから街道が交差する交通の要所として賑わいました。そのうちの一つ、飫肥（現日南市）と佐土原をつなぐこの道は飫肥街道とも呼ばれ、飫肥藩主が参勤交代で細島港から船出する際には、この道を通って細島へと向かいました。現在、愛宕神社入口南側に街道の一部が残っています。

44 茶屋稲荷跡



佐土原往還（飫肥街道）沿いには、城下を目前にして一息つける休憩所がたくさん並ぶ茶屋村があり、たいへん賑わっていたといわれています。茶屋稲荷跡は茶屋村に建立された稲荷神社の跡であり、現在も御手洗、手水鉢が残されています。

45 僧日講遺跡



日講上人は日蓮宗不受不施派最高の学識者として崇敬を集めていた高僧です。幕府の宗教政策に従わなかったため、佐土原に流罪となりましたが、佐土原藩 4 代藩主島津忠高の厚い崇敬を受け、この地で布教活動にあたりました。同遺跡には無縫塔や石碑が遺されており、県指定史跡となっています。

46 島津家久・豊久墓地(天昌寺跡)



天昌寺は曹洞宗の寺院で、天正 17 年（1589）鹿児島福昌寺の代賢和尚を開山とし、佐土原領主島津家久によって創建されました。家久の子豊久は慶長 5 年（1600）関ヶ原の戦いで戦死し、その一族は薩摩国永吉に移され永吉島津家を興しました。境内は現在佐土原中学校の敷地となっており、裏手に島津家久・豊久父子等の墓石が残っています。

47 西佐土原駅跡



大正 3 年（1914）に宮崎県営鉄道の佐土原駅として開業。後に国鉄妻線の駅となり、昭和 40 年（1965）6 月に西佐土原駅と改称しました。（同年 7 月には広瀬駅が現在の佐土原駅に改称。）同 59 年（1984）に妻線が全線廃止となり、廃止されました。現在跡地となった広場では、毎年愛宕神社の「ダンジリ喧嘩」の本戦が行われています。

48 天満天神社



島津以久が初代藩主として佐土原城へ入城した際、諏訪神社・天下神社・稲荷神社の 3 社を建立。更に都万宮・巨田神社・愛宕神社・天満神社の 4 社を建立し、計 7 社を「佐土原七社」として藩の安泰を祈願するための神社として定めました。慶長 5 年（1600）の棟札が遺されています。祭神は菅原道真であり、佐土原藩時代は連歌の句集を奉納する社でもありました。東禅寺迫の西側田島古城域内天神山に鎮座していましたが、現在地に遷座したといわれています。

49 はぜ馬場のはぜ並木



城下町と藩の米倉庫があった福島港に通じる重要な産業道路で、道路脇沿いにははぜの木が植えられていました。藩はこのはぜの実からロウソクを製造し、藩の専売品として大坂に送り出して現金収入を得ていました。この道路がかつて馬場であったことから、はぜ馬場と呼ばれ、はぜの並木は市指定の天然記念物です。

50 古月禅師生誕地



古月禅師は「東の白隠、西の古月」と称されたほどの名僧で、近世禅宗再興の双璧とされています。寛文 7 年（1667）9 月 12 日佐賀利村に生まれ、10 歳で禅宗の仏門に入り、松巖寺等で修行を積みました。宝永元年（1704）藩主島津惟久の命により大光寺 42 世住職となりました。禅師の人生訓を歌いこんだ「いろは口説」が佐土原町内で伝承されています。

51 阿佐加利神社(佐賀利神社)



永禄年間に田嶋備後が別の地に祀ったといわれ、島津氏が佐土原に入って後に現在地に遷座しました。言い伝えでは、「天から落ちてきた光る小石が歳月を経て大きくなったため、祠を建て、天子と呼んで奉祀した。参拝する人が社殿の下に出る小石を拾うと、虫や蛇の被害から守られる」といわれています。

なお、「佐賀利」とは、「神武天皇の麻を刈り給ふ」の略語とされており、神武天皇の聖蹟として顕彰されています。

52 曾我殿の墓



大光寺と同じく、中世の五輪塔6基等が残っています。両側の五輪塔は、曾我兄弟の仇討ちで有名な曾我十郎・五郎兄弟の墓、中央の五輪塔は『曾我物語』で曾我十郎の恋人とされる虎御前の墓と言われています。

53 佐土原藩十六烈士の墓



貞享5年(1688)、江戸へ向かう佐土原藩の御手船が遠州灘沖合で暴風雨に遭遇し、やむを得ず積荷である江戸城改修用の木材を海に投げ捨て、乗組員十六名全員が無事に伊豆国下田港に漂着。しかし、宰領河越久兵衛や船頭権三郎ら3名は大事な積荷を捨てた責任を取って自害し、水主13名もこれに殉じました。大安寺(静岡県下

田市)に同市指定有形文化財「薩摩十六烈士の墓」が、佐土原町内には徳ヶ淵に「十六烈士の墓」がそれぞれ遺されています。

54 下田島神社



白鳳5(677)年創建とされ、元は佐土原町南東部にある明神山にありましたが、室町時代に2度の火災で焼失したため、文明13年(1481)に現在地に遷座したといわれています。藩船航海の守護神である水門柱(とぼしら)大明神として祀られ、尊崇されてきました。

55 蓮光寺



宝池山蓮光寺は永禄9年(1566)に開山した浄土真宗本願寺派(西本願寺)の寺院です。本尊は阿弥陀如来です。

56 東町墓地(小松山墓地)



広瀬転城を主導したとされる能勢直陳や佐土原藩 10 代藩主島津忠寛の子息で西南戦争に参加して戦死した島津啓次郎の恩師である靱木武経、そして啓次郎と共に西南戦争で戦った小牧秀発、中村道晴、有村武英、三島貢ら佐土原藩士の墓が多く遺されています。

57 福島金毘羅神社



福島地区には昭和初期まで港があり、この港に入港する船の安全と乗組員の健康安全を祈願するために讃岐(現在の香川県)の金刀比羅宮の分霊が祀られました。また、久峰神社も併せて祀られました。

58 福島橋跡



明治44年(1911)、一ツ瀬川下流の中洲と広瀬村との間を流れる福島川に架橋された木造橋です。なお、中洲から対岸の間には大湊橋が架けられました。昭和25年(1950)9月のキジア台風による洪水で大湊橋とともに流失。現在は4つの橋脚が残されており、福島潜水橋から眺めることができます。

59 島津御殿跡



明治4年(1871)の廃藩置県により、知藩事であった佐土原藩10代藩主島津忠寛は東京へ移りました。その留守宅として広瀬に邸宅が建造され、11代島津忠亮は明治42年(1909)この邸宅で亡くなりました。今も残る2個の礎石は当時の正門のものです

60 前牟田墓地



佐土原藩10代藩主島津忠寛の側用人兼教主であった藩儒児玉平格の墓のほか、佐土原島津家関連のお墓が多く遺されています。

61 西郷札製造所跡



明治10年(1877)に起こった西南戦争の際、西郷軍は資金不足を補うため、「西郷札」として知られる金札(軍票)を製作・流通させました。この西郷札を製造したのが佐土原の瓢箪島であるといわれています。

62 久峰観音



大悲山補陀落院久峰寺は真言宗黒貫寺(西都市)の末寺で、敏達天皇の頃、日羅上人により創建されたと伝えられています。以前は門前町があり、縁日の際は賑わいました。そこで売られていた「うずら車」が有名です。

63 広瀬護国神社



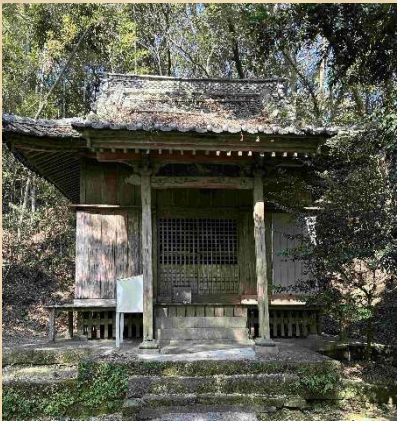
西南戦争に参加し、戦死した島津啓次郎を偲ぶ戦没招魂塚があります。啓次郎と共に佐土原隊として西南戦争に参加した者は1,114名にのぼり、戦死者は106名を数えました。西南戦争により、旧佐土原藩域は啓次郎をはじめとした多くの若い有能な人材を失いました。

64 広瀬神社



明治2年(1869)広瀬転城の際、佐土原藩の氏神である天下大明神、諏訪大明神、稲荷大明神の3社を合祀し、同5年(1872)に現在地へ遷座して広瀬神社となりました。同40年(1907)に石崎神社と八坂神社を、昭和17年(1942)に千代稲荷神社を合祀しています。

65 胸薬師



建長5年(1253)の創建とされ、病気・災厄を除くという薬師如来を祭神としています。境内に湧き出る清水を飲むと治癒効果があると伝えられています。1月8日が祭礼日です。

66 下那珂神社



古くは生井田大明神と称し、都萬神社祠官日下盛俊が那珂郡司職であった天徳2(958)年に奉祀したと伝えられています。明治時代に日照りの際に白太鼓を持って祈ったところ、雨が降ったと伝えられており、水神様としても厚く尊崇されてきました。

67 有喜橋(浮橋)



佐土原町下那珂と大字広原との境となる石崎川に架けられた橋で、以前は「浸々(びたびた)橋」と呼ばれていました。戦国時代、要害とするためにわざと板を水面に浮かべ、兩岸の樹枝から鉄鎖でつなぎ、有事の際は外せるように作られていました。

慶長5年(1600)の伊東氏家臣稲津重政の宮崎城攻めの後には、この橋付近で稲津勢と佐土原城より打って出た島津勢の間で戦闘が行われました。

68 東上那珂神社



「ゴリョウ様(五郎様)」と呼ばれる鎌倉権五郎景政を祀っています。景政は源義家に随って「後三年の役」(1083~1087)にて勇猛に戦った武将です。その死後、武神「御霊大明神」として各地で祀られました。当地においても武運長久の神として旧藩時代から厚い崇敬を受けています。11月15日が例祭日となっています。

69 平等寺遺跡(平等寺観音堂)



かつて当地には真言宗黒貫寺末日照山平等寺があり、建久2年(1191)の建立と伝えられています。寺領10町歩あまりの大きな勢力をもった寺でしたが、現在は境内に遺された有頸五輪の塔と、観音堂の中の鎌倉後期の作といわれる三体の仏像や頼朝の位牌が当時の平等寺の面影をとどめています。

70 西上那珂神社



西上那珂神社はホンダワケノミコトを祭神とし、上葺八幡様として地元の人々に崇敬されています。

9月9日が祭礼となっていますが、その他、創建等の由来はあきらかではありません。

71 愛宕神社夏祭り「喧嘩ダンジリ」



毎年7月に2日間開催される祭では、同社の御神輿が御神体を乗せ、町内を回ります。この夏祭りの際に出る太鼓台をダンジリと言ひ、赤・青に分かれて町内を練り歩いたのち、お互いのダンジリをぶつけ合う「喧嘩ダンジリ」を行います。

72 神代独楽



神代独楽は、江戸時代頃から佐土原で親しまれている独楽です。独楽の胴に風切穴が開いていることから、勢いよく回すとブーンという音がします。そのため「ブンごま」と呼ばれることもあります。宮崎市佐土原歴史資料館（鶴松館）で独楽回し体験をすることができます。

73 佐土原人形



佐土原人形は、江戸時代から佐土原で製作されてきた土人形です。大きく区分して縁起人形・節句人形・歌舞伎人形・風俗人形の4種類があります。往時は10軒以上あった町人町の窯元で製作されていましたが、現在は1軒が佐土原人形の文化を守り継いでいます。なお、宮崎市佐土原歴史資料館では窯元の協力の下、佐土原人形の絵付け体験を行っています。

74 うずら車



久峰で製作されていたことから「久峰うずら車」とも呼ばれます。タラの木等で作られたうずら車には雄雌があり、赤と緑の配色が雄、紫と緑の配色が雌です。国富町の「法華嶽うずら車」と並ぶ伝統的な郷土玩具です。

75 巨田神楽



巨田神楽は巨田神社に古くから伝わる昼神楽で、神楽面や太鼓などの記念銘から慶長年間(1600年頃)には舞われていたと考えられています。毎年、秋の祭礼日には巨田神社の境内で盛大に神楽が奉納され、「蛇切」と呼ばれる刀で綱を切る舞が見どころの一つで、市指定無形民俗文化財になっています。

76 鯨ようかん



佐土原銘菓として知られる餡と餅米でできたお菓子です。佐土原藩5代藩主惟久の幼少期、母である松寿院が「この子が大きくたくましい鯨のように育ちますように」と作らせた菓子が鯨ようかんであるといわれています。佐土原町内には鯨ようかんを製作する菓子店が軒を並べています。

77 宮崎市生目の杜遊古館第1展示室(佐土原城下関連展示)



平成22・23年度に寄合格の渋谷氏・騎馬格の郡司氏の屋敷地(現在の宮崎市佐土原地区交流センター・宮崎市城の駅佐土原いろは館)の発掘調査が行われました。その結果、両家の屋敷地を区画する溝

や建物の跡、井戸などの遺構が確認され、佐土原人形を始め、当時の道具も多数出土しました。出土物の中には「渋谷」・「渋谷氏」と記された木札や陶磁器も見つかっており、「佐土原御城下細見之図」(宮崎県総合博物館蔵)に記された渋谷氏の屋敷の場所と合致しています。展示室では出土遺物や屋敷の復元模型、佐土原藩士の石高を記した「分限帳」を展示しています。